

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり
～付けたい力と手だてを明らかにして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
6/7	45名	益城中 央小	10/21	13名	七滝中 央小	11/26	18名	広安西 小	1/27		益城中 央小
									中止		

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり」として研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科の学習において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、本テーマは、これまでの言語活動を中心とした研究をもとに、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付け、さらに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えている。

② 基本方針

ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。

イ 低・中・高学年部の3つの部会に分け、各学年部理事は3名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各学年部の理事が中心となって実施する。

ウ 研究授業では、授業者は「熊本の学び学習構想案」の型で指導案を作成し、「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にして授業研究に臨む。

エ 授業研究会では、討議の柱を設け討議の柱を中心に、各会員の実践を踏まえ意見交換をする。

③ テーマに迫る研究のあり方

ア 講師の先生のご講話による授業づくりのポイント

福田美佐子先生（不知火小指導教諭）によるご講話から「「読むこと」領域の授業づくり」について、具体的な教材を基にそのポイントとその手だてを学んだ。

イ 研究授業の主張点

研究授業の主張点として、「熊本の学び」でポイントとなる3項目（「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にし、児童が見通しをもち、主体的に授業に臨めるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして「討議の柱」を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議をもとに「討議の柱」を決定し授業研究会を行った。さらに、授業研究会では、全体での質疑応答の後、討議の柱を中心に少人数での班別協議を行った。その際、付箋紙を活用し、討議の柱に沿った意見交換がしやすいように工夫した。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・ 第1回研究会では、福田美佐子先生（不知火小指導教諭）をお招きし、読むこと（「説明的文章教

材)の授業づくりについて、ご講話いただいた。今、国語科で求められている授業づくりについて、具体的な教材を基にそのポイントを分かりやすくご講話いただき参加者にとって大変有益な情報が多く得られた研究会となった。

- ・ 第2回研究会では、1年生の説明的文章教材「じどう車くらべ」において、「説明的文章教材における単元導入の工夫として、本授業の展開は、単元のねらい(じどう車の「しごと」と「つくり」を関連付けて捉える)達成に向けて効果的であったか」を協議の柱として意見交換が行われた。1年生の説明的文章教材の単元導入をいかに行うかについて、研究授業で提案がなされることはほとんどなく、その意味からも大変提案性のある授業となった。題名読みから本教材となるキーワード「くらべ」(くらべる)に着眼させ、「つくり」と「しごと」をつなげて読むという単元をに気付かせていく方法は大変参考になったという意見が多く出された。
- ・ 第3回研究会では、3年生の説明的文章教材「すがたをかえる大豆」において、「『わかる・できる』『楽しい』授業にするために、単元構成の工夫、本時における話し合い活動、シート等の手だての工夫は効果的であったか」を協議の柱として意見交換が行われた。国語科「読むこと」領域では、既習事項(既習教材)の想起(振り返り)をどのように行い、どう本教材につないでいくかについては、実際に研究授業で提案されることはない。したがって、導入の具体的手だてがわからないという声をよく聞く。既習教材「言葉で遊ぼう」との対比から本教材の文章構成の特徴(問いの文がない)に気付かせていく方法やシートの活用等について大変参考になったという意見が多く出された。

② 課題

・ 例年は、地区ごとに部会を設け、部会ごとに事前研や当日の運営を行う。しかし、コロナ禍においては、会員数の多い国語部会の全員参加での研究会は難しい。そのため、今年度は低・中・高の3部会に分けて、分散型の研究会という形で運営を行った。この運営方法は、感染防止と負担軽減というメリットもある。今後の運営の在り方については検討が必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名：文章構成と事例の順序、述べ方の工夫に着目して読もう「すがたをかえる大豆」

授業者：広安西小学校 園田 聡子 教諭

本時は、次のような授業者の問題意識のもとに組み立てたとの報告が。「説明文は物語と違い、子供たちが文章に入りづらい。何も考えずに読み進め、読み進める実態があると感じていたので、予想しながら読む癖をつけるにはどうしたらいいかを考え、この授業を設定した。『すがたをかえる大豆』は、問いの文がない。次にどうつなげるかを考えながら設定した。」授業は、大変鍛え抜かれた真摯に学ぶ児童の姿を見ることができた。授業研究会では、「既習をどう活用して導入を図るかという点で提案性があった」「具体的な手だての一つとして提案された3種類のシートが大変参考になった」「話し合い(グループ学習)活動の具体的方法がわかった」等々大変参考になったという意見が多く出された。

(2) 学習構想案

1 単元構想

単元名	文章構成と事例の順序、述べ方の工夫に着目して読もう		
教材名	主教材 「すがたをかえる大豆」(『国語 3下 あおぞら』光村図書) 副教材 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」(『国語 三上 わかば』光村図書) 『すがたをかえるたべものずかん』(ポプラ社)他		
単元の目標	(1)論理展開を示す語や文を捉え、段落や接続する語句の役割について理解したり、観点を明確にして比較や分類をしたりして情報を整理することができる。〔知識及び技能〕(1)カ(2)イ (2)文章全体の構成や段落の関連性、整合性を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(1)ア (3)例を挙げて説明された各段落の文章の構成について、大事な言葉や文に注意しながら読み、各段落の内容を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(1)ウ (4)筆者の説明の仕方の工夫について、友達と対話することで、根拠をもとに自分の考えを伝えたり、質問したりしながら、粘り強く課題の解決に向かって取り組む態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価	知識・技能	「読むこと」における 思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

規準	①「話題提示」「具体例」「結論」など段落の構成や接続する語句の役割を理解している。 ②観点に沿って、情報を比較したり、分類したりして整理している。	①筆者の考えやそれを説明している具体例の文に着目し、段落相互の関係を整理している。 ②段落冒頭の接続語やトピックセンテンスに着目して、事例と事例の関係を捉えている。	①筆者の説明の仕方の工夫を捉えようと、進んで話し合いに参加し、積極的に課題を解決しようとしている。 ②本や図鑑に書かれている事柄に関心を持ち、文章を分析的に読むことを楽しもうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
既習事項と新知をつなげ、課題の解決に向け、自己の考えをもとに話し合うことを通して、筆者の説明の工夫を使って「ほかの食べ物について説明して、紹介してみたい。」と次の単元への意欲を高めている児童			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で身に付けさせたい見方・考え方	
筆者の説明のしかたのポイントを見つけ、「説明文なるほどアイテム集」にまとめよう。		段落を横断的に見て分類したり、中心となる語や文を捉えて、比較し、関係を考えたりすることで段落相互の関係を捉え、説明的文章に対する多様な見方・考え方を育てる。	
指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時2／9）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等
一次	3 本時 (課外)	○加工食品の原料を問う「食べ物クイズ」に答えながら、どのような手の加え方をして姿を変えているのか予想し合う。 ○中核教材を読み、内容や説明の仕方について感想や気づきを話し合い、整理する。 ○既習教材と中核教材の冒頭部を比べて読み、文章構成の共通点や相違点を出し合い、学習課題や学習計画につなげる。 【本時】 ○新しい説明文のポイントや既習の学習内容をもとに学習課題を立て、学習計画を話し合う。 ○例の挙げ方や説明の工夫などをロイロノート内に記録しながら並行読書をする。	【態①】 （観察、ワークシート） ○文章の内容や説明の仕方に興味を持って読もうとしている。 【態①】 （観察、ワークシート） ○教材文を同じ観点で読み、共通点や相違点を見つけようとしている。 【態①】 （観察、ワークシート、学習計画表） ○教材文を読んだの気づきをもとに、学習課題を考えたり、学習課題を達成するために必要な学習計画を提案したりしようとしている。 【態②】 （観察、記録カード） 進んで事例の挙げ方や説明の仕方に関心を持って読もうとしている。
二次	5	○段落の内容を比較しながら、文章全体の構成を整理し、「冒頭部」から問いを複数見つける。 ○「冒頭部」の話題提示や「展開部」の事例、「終結部」の筆者の考えを関連付けながら、見つけた問いの文の整合性を話し合う。 ○接続語に着目しながら、事例のつながり（まとめる段落、仲間外れの段落）を考え、図に整理する。 ○「中（展開部）」に書かれた各段落の文章を3つの事柄に分類して、共通点を整理し、説明の工夫をまとめる。 ○中心となる文中のキーワードに着目し、筆者がどのような順序で事例を説明しているのかを整理し、その効果について理由と根拠を挙げて説明する。	【知①】【思①】 （ワークシート） ○段落相互の関係を考え、文章を3つに分けている。 【思①】 （ワークシート） ○叙述内容の相互関係を考えて読み、問いを作り、文章構成の理解を深めている。 【知①②】 （ワークシート・ロイロノート） ○接続語に着目して、事例と事例の関係を捉え、「中」の段落を2つに分けている。 【思①②】 （ワークシート・ロイロノート） ○段落内の構成をそろえることによる効果に気づいている。 【思②】 （ワークシート） ○具体例を挙げる順序とその効果を関連付けて、考えている。
三次	1	○単元の振り返りをし、どんな力が付いたのか確かめ、学習内容や学習方法の一般化する。	【態①】 （観察・チェックシート） ○単元で学んだこと（問いを作る、順序の意図、新しい順序を表す言葉、トピックセンテンス）や課題を書こうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態（略）

3 指導に当たっての留意点

- 導入では、①自己評価につながる学習活動（児童がこれまでに習得してきた力を確認する）②単元の学習課題に興味を抱くような学習活動（意欲の喚起）の2つを行う。①の活動から、問いのあり方や、段落構成、説明の順序など児童のこれまでの認識や既習事項とのズレをもとにして学習課題を設定し、新しい説明力のアイテムが増えていく喜びを感じさせ、課題の達成へと意識

をつなげたい。

○単元の学習過程では、児童の思考操作や言語操作を意識した学習活動を取り入れる。3種類のシートを使用する。必要な知識や学び方を記載したポイントシート、構造や知識を発見するためのワークシートや思考ツール、単元で習得した知識や技能をメタ認知するためのチェックシートを作成し、自力解決作業に役立てたり、話し合いを可視化したりしながら、学びの自覚化を図ることができるようにしたい。

○単位時間の「めあて」や「まとめ」は、各教科内や各教科を貫く汎用的な能力が反復して身に付けられるように、学習内容を一般化する。「振り返り」では、複数の観点を示すことで、児童が、その中から選んで書くことができるようにする。

○児童が見つけた筆者の説明の工夫は「今日発見した説明の技」として毎時間積み重ねていけるように、まとめる場を設ける。

4 本時の学習

(1) 目標

比べ読みを通して、説明文の冒頭部の構成や役割を整理したり、問いの文がない説明文があることに気づいたりしている。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意事項
導入	5分	<p>1 学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロイロノートに保存している資料や振り返りを見ながら、前時に学習したことをクラス全体で確認する。 ○ 本時のめあてや学習活動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期の説明文の学習のポイントシートや本単元の学習の参考になる資料は、事前にロイロノートの資料箱に保存しておく。
		<p>【めあて】 比べて読み、説明文の「はじめ」の役割や文章の組み立てを整理しよう。</p>	
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習教材「言葉で遊ぼう」の冒頭部を読み、段落内の文章構成を整理する。 ○ 冒頭部の共通する文章構成に着目し、読者にとってのよさ(冒頭部の役割)について考える。 ○ 各自が考えた意見を出し合い、根拠をもとに話し合いながら、グループとしての意見をまとめる。 ○ 各グループから出された意見を全体で整理し、話し合いながらまとめる。 ○ 中核教材「すがたを変える大豆」の特徴を見つけるために、既習教材の冒頭部と比べて読み、共通点と相違点を見つける。 <p>.....</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 冒頭部の構成や働き、問いのない説明文があることを発見的に学び、説明文を読むときにどのような視点で説明されているのかを予想し、考えながら読むことの大切さに気づく。 <p>.....</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「比べ読み」をした既習の学習を振り返る中で、本時の比べ読みの観点を説明する。 ○ 学習の目的・手順を確認する。 ○ 自力解決が難しい児童には、マーキングして色分けした冒頭部を示す。 ○ ほかの既習教材でも当てはまるのかタブレットで言語操作をしながら確認する。 ○ 内容ではなく、書かれ方に目を向けさせることで、一般化を図る。 ○ 話し合いの方法、意見のまとめ方を確認する ○ 説明文の冒頭部の役割を考えることで、予想して読む力、考えながら読むことについて触れる ○ 比べて読むことで、既習とのズレを発見的に学びとり、新しい説明文のタイプに気づくことができるようにする。
		<p>【具体的評価規準】 観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習学習の振り返りや比べ読みを通して、冒頭部の特徴や構成、役割を捉えている。 	
終末	10分	<p>3 学習のまとめとふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の話聞き、冒頭部の働きや中核教材の冒頭部の特徴など、学習内容を記述し、考えの広がりや深まりを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてや課題と照らし合わせ、学習内容と学習方法を一般化する。 ○ 既知と新知を整理しながら補説する。
		<p>【まとめ】 (学習内容) 「はじめ」には、読者がこれから説明されることへの見通しや興味を持つことができるように話題や(対象物の)紹介、問いかけがある。(問いに当たる文章が見当たらない説明文もある) (学習方法) 比べて読むときは、同じところやちがうところを見つけながら読む。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点に沿って、ふりかえりを発表する。 ○ 次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題と対応した観点を示し、児童のメタ認知を促すようにする。 ○ 次時(学習課題や学習計画の話し合い)の活動について確認する。

